

2005年8月18日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-3664-5697

中国における A V 機器、家電製品市場調査を実施 - 中国の薄型 T V 市場は 2 0 0 7 年に 7 3 5 万台 (0 4 年の 5 . 9 倍) -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部英雄 03-3664-5811)は、このほど中国における A V 機器、家電製品の生産・輸出・販売状況の調査を実施した。その結果を報告書「2005年 中国電子機器産業・市場の展望(上巻) < A V 機器・電化機器編 >」にまとめた。

< 2 0 0 4 / 2 0 0 5 年中国 A V 機器・家電製品産業の特徴 >

W T O 加盟以降国外への展開が活発になり欧米諸国への影響が大きくなった。2004年は、米国からカラー T V などがダンピング提訴を受け米国市場への供給が減少した。また E U からは環境対応への要求が強くなり、2005年夏からは有害物質使用禁止の R o H S 指令やリサイクル対応の W E E E 指令によりカラー T V、エアコンなど家電製品全般に影響が出るとみられる。今後の展開は徐々に難しくなると予測される。

中国国内市場ではローエンド製品は横ばいになっている。2004年は日本や欧米で市場が拡大している、液晶 T V、プラズマ T V、DVDレコーダー、MP3プレイヤー、ホームシアターなどが中国市場でも定着し始めた。家電製品では、インバータ付エアコン、ファジー冷蔵庫、ドラム型洗濯機、スチーム式電子レンジ・オープンなど高機能製品が増えている。2005年以降はこれらの高機能製品が拡大すると見られる。

< ハイエンド製品市場が立ち上がった中国市場 >

薄型テレビ(液晶 T V、プラズマ T V、リアプロジェクション T V)市場

	2004年	構成比	2007年	構成比	伸長率
カラー T V 全体	5,000万台	100.0%	5,600万台	100.0%	112%
液晶 T V	25万台	0.5%	300万台	5.4%	1200%
プラズマ T V	19万台	0.4%	85万台	1.5%	447%
リアプロジェクション T V	81万台	1.6%	350万台	6.3%	432%

2004年のカラーテレビ市場は5千万台で、C R T テレビが97.5%を占める。薄型テレビは125万台にすぎないが、前年の2.8倍と非常に高い成長を示した。薄型テレビは価格の低下が購買意欲を刺激し、今後も高い伸びを続け、2007年には2004年の6倍弱の735万台に達すると予測される。特に伸びが高いのは液晶 T V で、2004年の25万台から2007年には12倍の300万台に達すると予測される。リアプロジェクション T V、プラズマ T V も4倍強の伸びが見込まれる。カラー T V の増加分は薄型テレビであり、C R T テレビは農村地区や富裕層を除けば主流ではあるが長期的には減少傾向と予測される。

中国では、2005年、2008年、2010年、2015年の四段階に分けて、アナログ放送からデジタル放送へと転換していく計画で、2015年に中国国内ではアナログ T V 番組が全面停止になる。現在3.85億世帯が4億台のカラー T V を保有していることから、今後10年以内に、これらのカラー T V がデジタル T V に転換あるいはデコーダ据付になるとみられる。今後も中国の T V 市場は巨大市場である。

< 生産動向 >

最も生産台数の多い機器は、DVDプレイヤーで1億4千万台を超える。その90%弱が輸出であり、世界の生産基地としての中国を代表する製品である。ただし、DVDレコーダーへの移行、次世代DVDへの切り替えに伴う買い控えもあり、2007年は04年の9割程度になるとみられる。中国では次世代DVD規格としてEVD(Enhanced Versatile Disk)方式を推奨しており、特許料の支払いは減るものの、ブルーレイ方式、HD DVD方式と3規格が並立することになる。ユーザーが選択に迷い結果として市場の停滞を招くことも予想される。

次いでカラーTVが7千万台を超えている。95%がCRTで液晶、プラズマ、リアプロのウエイトはまだ小さい。しかし、2007年にはカラーTVの生産に占める薄型3種のウエイトは13%に達するとみられる。その半分以上は中国市場向けとなる。エアコン、電子レンジ、冷蔵庫、洗濯機という家電製品が続いており、電子レンジを除くと国内向けがメインとなる。MP3プレイヤーは、2004年に生産規模が前年の倍以上と急拡大し1千万台を超えた。今後も輸出中心に拡大していくとみられる。

<輸出動向>

輸出比率が高い(2005年見込)のは、DVDレコーダー(94%)、DVDプレイヤー(88%)、電子レンジ(80%)で、液晶TV、MP3プレイヤーが70%台、リアプロジェクションTVが60%台で続く。洗濯機、オーディオセットなど他の6品目は国内市場向けが輸出を上回る。生産規模は小さいもののプラズマTVで国内向けが輸出を上回することは、大画面TVの国内市場が開花したことをうかがわせる。ただし、オーディオセットと洗濯機を除けば、輸出比率は40%台であり、世界の生産基地としての中国に大きな変化は現れていない。今後は、液晶TVリアプロジェクションTVなどのハイエンド製品の世界への供給が進んでいく。

調査対象

分野	品目	種類別	主要部品ユニット動向
AV 機器	カラーTV(全体)	ブラウン管TV、プロジェクションTV、液晶TV、プラズマTV	カラーブラウン管、TVチューナー
	液晶TV	15・17・21・25・30以上インチ	
	プラズマTV	42、52、60インチ	
	リアプロジェクションTV	42、50、60、70インチ	
	DVDプレイヤー	DVDプレイヤー、ポータブルDVD、コンボ	光ピックアップ、デッキメカニズム
	DVDレコーダー	DVDレコーダー、DVD/HDレコーダー	光ピックアップ
	MP3プレイヤー	フラッシュ、HDDタイプ	
	オーディオシステム	ミニコンポ、ホームシアター	アンプ
電化 機器	エアコン	セパレート型、ウインド型、パッケージ型、	エアコンコンプレッサ
	冷蔵庫	冷蔵庫、冷凍冷蔵庫	
	洗濯機	全自動型、普通型	洗濯機モーター
	電子レンジ	オープン機能付、レンジ	マグネトロン

調査方法

関係各機関の統計、推定を基に、中聯富士経済咨询有限公司調査員による主要企業への取材。

調査期間

2005年6月～7月

以上

資料タイトル:「2005年 中国電子機器産業・市場の展望(上巻)<AV機器・電化機器編>」

体 裁 : A4判 259頁

価 格 : 100,000円(税込み105,000円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第四事業部

TEL:03-3664-5821(代) FAX:03-3661-9514

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811(代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>